



# リードパンチ問題



雲地草夫

## 宇宙論的リードパンチとは

---

筆者の一連の著作物のなかでいまだ論じられていないのが宇宙論的リードパンチの問題だ。この問題を避けて通ることは無責任というものだ。

人間の人生をボクシングの試合にたとえたとする。選手たちはゴングがなったら直ちに火達磨のようになって120パーセントの力で戦い始めるだろうか。実はそうではなかったというのが定説である。人間は最初は楽しい天使のような性格だったという。だが人間同士の間には格差のようなものが生じてきて、だんだん摩擦と軋轢が生じた。人間の間には摩擦や軋轢はどんどん大きくなり、争いはどんどんヒートアップした。最後には怒髪天に昇る復讐の鬼になったという。

ボクシングで言えば、最初は軽いジャブ程度でお茶を濁そうとしていたら、だんだんヒートアップしてきて、心臓打ち、レバーブロー、ローブロー、肘打ちなどをし始め、最後には双方が瀕死の状態になったという感じだ。

歌の歌詞のなかにもそれらしいくだりを発見した。

♪夢に向かい交差点を渡る「途中の人」はいいね♪ B'z LOVE PHANTOMの一節

この人間同士の争いのヒートアップ現象は、宇宙インフレーションと呼ばれている。難しい言葉で言うと、宇宙インフレーションとは、宇宙の熱エントロピーが無限に発散していくということだ。

リードパンチをご存知だろうか。ボクサーがラッシュをかける前に、利き腕でないほうの腕でちょこんと繰り出すパンチのことだ。ジャブとも違う。繰り出す者は、パンチを当てる意思がない。見る側にとっては、ただ腕を伸ばしているだけのように見える。まるで相手との距離を腕で測っているかのようだ。まったく熱さがなく、かといって冷静でもない、最初の一発なのだ。

なぜリードパンチのことなどを言い出すのか。それは、人間の一人一人が最初に一発のリードパンチを繰り出しているのか繰り出していないのかということが宇宙を論じるうえで大問題だからだ。もし人間が一発のリードパンチを繰り出していないのであれば、人間はいきなりラッシュをかけて火達磨になっていることになる。そうすると宇宙がインフレーションに突入するきっかけとなったキューがまったくなかったことになる。そうするとこの宇宙は「鶏が先か、卵が先か」というパラドックスに陥って人智の及ばない手のつけられないものになってしまう。

だがもし、人間が最初に一発のリードパンチを繰り出しているのであれば、宇宙は人間にとって理解の及ぶ対象なのかもしれない。宇宙がインフレーションに突入するきっかけとなったキューが

あるからだ。

またこういう問題もある。ボクシングの試合中に互いにラッシュを掛け合っているときに、突然リードパンチが再び繰り出されることがあるかもしれない。ラッシュをにかけている選手たちは、「え？このタイミングでリードパンチ？」と面食らうかもしれない。先ほどのB'zの歌で言えば、交差点をわたりきっている人たちが、まだ交差点を渡る途中の人間を発見したということだろうか。

いずれにしろリードパンチを使う選手は、ボクシング界にとって特異な存在であることには違いない。